

## 平成30年度 第1回小城市男女共同参画審議会 議事録

- 開催日時 : 平成30年6月26日(火) 午後2時～午後3時38分
- 開催場所 : 小城市役所 西館 2階 2-6会議室
- 出席委員 : 吉岡委員、古川委員、古賀委員、百崎委員、大平委員、船津委員、半田委員、圓城寺委員、七島委員、藤井委員
- 事務局 : (総務部 企画政策課)  
麻生企画政策課長、池田企画政策課副課長、永淵協働推進係長、高塚主査、中島主事
- 傍聴者数 : 0名

### 《 議 事 録 》

#### 午後2時 開会

#### 1. 開 会

(企画政策課長) 定刻となりましたので、皆様、こんにちは。私、4月1日より新しく企画政策課長になりました麻生と申します。どうぞよろしくお願いいたします。何分、企画政策課は初めてなもので、不慣れなことが多いと思いますので、皆様、ご指導ご協力どうぞよろしくお願いいたします。それでは平成30年度の第1回小城市男女共同参画審議会を開会させていただきたいと思います。

資料2をご覧ください。本日、学識経験者の原健一様、福成有美様、推薦の人権擁護委員協議会の諸岡賢治様、小中学校校長会の田中裕子様の方からはご欠席のご連絡をいただいております。なお、推薦の小城市区長連絡協議会の古川一二三様と、市長が必要と認める者、小城市女性人材バンクの圓城寺真理子様は4月1日からの就任ということですので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会長のあいさつの方に移らせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 会長あいさつ

(吉岡会長) 改めまして、こんにちは。それでは今日は、今年度最初の審議会です。一昨年度に策定しました第2次男女共同参画プランが、昨年度から実施されていて、その状況報告と本年度の計画が予定されているようです。よろしくお願いいたします。

(企画政策課長) ありがとうございます。それでは、資料1の審議会条例の第6条で会長が議長となるということになっておりますので、議事の進行を会長、よろしくお願いいたします。

## 3. 議 事

### (1) 平成 29 年度男女共同参画関連事業実績報告および第 2 次小城市男女共同参画プラン進捗状況について

「資料 3-1 平成 29 年度 男女共同参画関連事業実績」

「資料 3-2 第 2 次小城市男女共同参画プラン進捗状況（成果目標及び数値目標）」

「資料 3-3 小城市審議会等における女性登用率調べ（H30. 3. 31 現在）」に基づき事務局より説明。

(吉岡会長) では、いま資料 3-1 から 3-3 まで、まとめてご説明をしました。順次、見てみたいと思います。資料 3-1 を再度ご覧ください。いずれも、昨年度、平成 29 年度に実施されたものや、昨年度までの状況についてです。資料 3-1 は、男女共同参画に関連する様々な事業の中身と関連費用ですけれども、何かお気づきの点やご質問等はありませんでしょうか。

では、次の資料 3-2 も関連していますので、資料 3-2 についても、もう一度ご覧いただきまして、何かご質問やご意見、事業に関われた方もあるかと思いますが、何か補足などあればご紹介いただきたいと思います。

半田さん、何か男女共同参画ネットワークではありませんか。

(半田委員) 委託事業をいただいて活動しました。なかなか人数がフォーラムも集まらなくて、事業所をずっとまわりながら、私たちも初めて事業所に行って、ワーク・ライフ・バランスの話をして、とてもいい交流ができたんですね。その後、アンケートをとられたので、アンケートの結果を楽しみにしています。ちょっと見せていただきたいと思ったのが、子育てガイドブックとか啓発チラシをアンケートのとき同封されていたということで、どのようなチラシを同封されていたのかなど。

(企画政策課副課長) チラシは、今回お渡ししている資料の中にあると思います。今回は、ワーク・ライフ・バランスをテーマにということで、こちらの方を事業所アンケートと一緒に各事業所に5枚程度ずつ同封して送りました。

(半田委員) わかりました。

(吉岡会長) 資料 3-2、3ページの No. 6に「年代別男の本音」というのがありますが、これはどのようなイベントなのですか。

(半田委員) これ今回で2回目なんですね。1回目は一昨年実施して。昨年メンバーをかえまして、30・40・50代とか60代以上とかね。昨年は、ゆめぷらっと小城の館長さんに参加してもらったり、事業主の方にも参加してもらったり、いろんな交流というか、いろんなご意見を聞いて、なかなかたくさんは参加してもらえませんが、ご夫婦で参加されたり、参加者もバラエティに富んでいました。おもしろかったですね。

ネットワークに男性会員が3名、今年もう1名増えて4名おられるんですね。男性企画を毎年1つ啓発活動でやってくださいということで、男性が企画してやったんですが、女性が企画するよりもまた違うアイデアが出たりします。

今度、男性の家事参画ということで、佐賀県が50万円の補助金を出しますっていう案内があったので、男性にぜひ申請してくださいって言ったら、通ったんですね。大変ですけどね。その企画がね、アイロン、私なんか女性の場合は料理とかにいくけど、男性の場合は、「アイロンがけ」をテーマにするということで、カジさんという女性のそういう専門の方を神戸から来ていただいて、講演と実演と2日にかけてするという話をしていたら、メンバーの中で、実は私の夫は趣味がアイロンがけで、夜に2時間かけてやるらしく、きっと自分の中でリセットできるのかな、一つの仕事に熱中して、アイロンをかけてきれいになると無心になれる、自分を取り戻せる、そういうことかなど、昨日話していたところですよ。なかなか男性と女性のアイデアの違い

はおもしろいですね。

(吉岡会長) ありがとうございます。他に何かありませんか、ご質問も含めて。

(七島委員) No. 12 の父親が育児に積極的にという、父親向けでだっこ体験やビデオ学習を行われたということだったんですけど、これ対象は、どういうお父さんたちを対象に募集をかけられたのかなど。

(企画政策課副課長) この事業はパパ・ママ教室で、健康増進課が実施されています。

(企画政策課長) 元健康増進課の職員です。妊娠届を出されたときに母子手帳を取られる方にパパ・ママ教室をしますよ、というお知らせをして、なるだけ皆さん来られるように日曜も開催するようにして、赤ちゃん人形を使って練習したり、ビデオを観たりして、父親になる心づもりなどもひっくるめて、たばこが与える影響とかを事前にお知らせするとか、そういう感じの教室です。

(七島委員) すごくいいなと思ってですね。それこそ、誰かのアイディアで、父子手帳の、賛否両論がありましたけど、ああいうのがすごくいいなと思う。特に初めてお子さんを持たれるご夫婦とかは、こういうのがあればすごくいいだろうなど。もっと広がればいいなと思う。

(企画政策課長) そうですね。なかなか、ピンポイントで、母子手帳を取りに来られた方に直接呼びかけしております。

(七島委員) 私が思っていたのが、それこそ月齢がちょっと離れている1歳児くらいの交流があればおもしろいかなと思う。よく自分たちが乳児健診とか、そういうところでお友達になるきっかけもあったけど。ちょっと早い、半年とか1年上のお母さんたちとお話すると、励まされたりしますので、そういうのもパパさん向けとかあったらおもしろいかなと思います。

(企画政策課副課長) ありがとうございます。

(半田委員) 今の若いお父さんは積極的に育児に参加されますよね、昔に比べたら。若い世代の自分の息子くらい、息子夫婦にはまだ子どもはいないのですが、すごく家事は、分担じゃないけど、息子の方が主に家事をしていて、だから若い世代はどんどん変わっているなと垣間見た思いです。子育てなんかも男の人も一生懸命参加されているのかなと思いますが、どんなですかね。

(吉岡会長) 印象でいいと思いますよ。

(企画政策課長) それこそ、家を建てられるときとか、前だったらキッチンも奥さんの意向で、というのがありますが。今はやっぱり、男性も立たれるから、そもそも高めに設定したり、時代がして当たり前と思ってらっしゃる方もかなり増えているんじゃないですかね。そう思います。

(吉岡会長) その他いかがですか。

(藤井委員) 計画にあって未実施だったところの説明を少しいただけたらと思います。

(企画政策課副課長) はい。では、未実施の部分の説明を上から順番にしていきます。4ページ目、番号の No. 11 になりますが、「性の多様性についての理解が進むよう啓発に努める。」というところですが、企画政策課では昨年度、人権・同和対策室の人権ふれあいセミナーで「LGBT」をテーマにした講演会を実施されるということでしたので、内容が一緒にならないようにということで、昨年度は企画政策課としては実施していません。

5ページ目の No. 14 になりますが、「男女がともに自治会活動・コミュニティ活動へ参画することを促進するための意識啓発を行う。」というところですが、自治会活動に女性をとというのは、市から女性の参画を促しても、自分からなかなか手を挙げる方がいらっしゃらないということもありますが、引き続き地域における男女参画の推進を図っていきたいと思っております。今年度は、女性の区長さんが4人と、若干増えているようです。

7ページ目の No. 35 になりますが、「市の管理監督職に女性の登用を推進する。」ということで、未実施になっていますけど、登用はされていますが、なかなか目標達成までは伸びていないという状況だと思います。こちらは昨年度の実績になりますが、今年度、新たに小城市で初めて女性の部長として、福祉部の部長に女性が就任されています。

8ページ目の No. 40 になりますが、「エイズ/HIV、性感染症の予防等に関する情報提供を行う。」というところですが、こちらの方は昨年度は実施できていないということになります。未実施の部分については以上です。

(吉岡会長) 自治会活動が、向こう何年間かを目途に取り組みを考えて、ぜひ。

資料 3-2 については、いかがでしょうか。

(古川委員) 自治会における女性の区長さんというのが、非常に発言力も強くて、男性を震い立たせることを言われますので、非常にいい傾向にあると言えます。もっと増えればいいですね。私たちの地区でも、女性の方がなったらいいなと思いますけど、地元の人だったらいいですけど、他所から入ってくる人たちが、地元住民の7割以上なんです。そういうことで、隣の人たちが何しようと私たちはわかりませんよ。言葉づかい一つにしても、地域性が出ますので、強く言われたような気になるんですね、方言はね。都会から来た人たちはびっくりして、もうあの人とは話さない。そういう傾向も見受けられますので、私たち自治会長としては、ある程度緩和しながら、お互いに譲りあったような気持ちを持ってやっていこうと。

今、若い人たちにもよく言うんですよ。あなたたちが勝手なことばかり言っちゃいかんよ。お父さんは会社勤めしとる、私もパートに行って働きよる。やっぱり同格は認めますけども、ある程度お父さんの方も立てて、今は男性の方が弱いわけですね、はたからみると。奥さんをよう立てて頑張りよるなど。生活の中でも見受けられます。私も実際ですね、妻に言うよりも私の方が動いた方がましと思って、茶碗なんかみんな洗いますよ、炊事場に茶碗なんか置いとったらですね。今日、娘がご飯を炊くのを忘れとったなと思えば、ちゃんにご飯も仕込みます。お互いにやってあげばお互いに感謝していくわけですから、上手いこと世の中まわると思います。

(半田委員) どの地域ですか、7割も外からなんて。

(古川委員) 私は、戊の方です。私も生まれは三日月町ですが、35年間佐賀市や関東や関西に出とったんですね。向こうから帰ってくれば、数年はやっぱり田舎やねと。しかし住めば都で、田舎が一番いいと感じるわけなんです。だから、田舎に帰ってきて、二度と帰らないという人が出るというのは、住み慣れた田舎で過ごそうとか、その地域に合った生活をしないといかんなどというのが身についてくるわけなんです。そういうのがお互いに男であれ女であれ、そういうところは平等にやっていって、初めていい世の中もできるし、世間体もよくなると思います。

(吉岡会長) 新しく入ってきた人たちと元々いた人たちがどう融合するのかというのは、別の自治体でも課題にはなっています。

(半田委員) 本当に大変ですよ。文化から言葉から。

(古賀委員) 半田さん、事業所に行かれてDVなどの話は出なかったですか。

(半田委員) 特に話は出ななかったですけど、「ワーク・ライフ・バランスっていう言葉を初めて聞きました」っていうところが何か所かありました。まわって行った意味があったのかなど。みんな丁寧にお話を聞いていただいて。

(古賀委員) 最近、DVとかセクハラとか、実際にはどうだったのかなど。

(半田委員) 初めての人には言わないんじゃないですかね。DVの相談窓口がある、生協の理事とかやっていると、生協の中にもハラスメントの相談窓口がある、誰にもわからないように電話できるように。そういうところが必要なんですよ。「me too」のムーブメントでも、一線で働いている女性がいかにハラスメントを受けていたか、記者とか、めちゃくちゃですよ。それを言わずに黙って、我慢して、日本だけじゃなく、アメリカでもよその国でもみんなそうで。それを言うと、自分の仕事ができなくなるとか。やっぱり大変なことがあったんだなど。相談窓口があるのとないのと、全然違いますもんね。言っているんだと。それで新聞も取り上げるようになったということだと思います。

(吉岡会長) まわられた事業所の従業員数は。

(半田委員) 企業によって違います。全部は行ってないですよ。知っているところの事業所、知り合いのところの事業所を中心に行きました。飛び込みだと門前払いになりますでしょ。

(吉岡会長) 圓城寺さん、何か質問ありませんか。

(圓城寺委員) それでは、No. 16の「防災会議への女性参画を推進し、防災計画に女性の意見を反映させる。」とありますが、女性委員からの意見があったというのは、この女性委員というのはどなたですか。

(企画政策課副課長) 防災会議の委員 25名中2名が女性ですが、ちょっと調べさせてもらっていいでしょうか。お名前までは出せませんが。

(圓城寺委員) この会議に出られる方たちは、決まった団体からの委員ですか。

この審議会から出られているってことはないですか。

(古賀委員) 防災会議に、私は出させていただいております。

(半田委員) 女性の意見大事ですもんね。

(吉岡会長) 大事です。もう少し人数が増えてもいいんでしょうけどね。

(大平委員) No. 49の「市職員のハラスメント研修」ということで、パワハラの防止職員研

修会が書いてありますけど、結構、世間でパワハラ、パワハラって、すごく言われているので、自分たちも機会があれば参加できたらよかったなと思って。ちょっとの言い回しでそう捉えられることがあるじゃないですか。これは伝達の研修ということで、一般の事業所でも少し聞ける機会があったらいいのではないのかなと思いました。

(企画政策課副課長) ありがとうございます。この研修については、職員研修ということで実施しておりますが、市内の事業所の方が参加できるような内容であるならご案内をしていきたいと思います。

(吉岡会長) 内容によっては開いていくということですね。

(企画政策課副課長) そうですね。

(百崎委員) 今のNo. 49で、相談員さんは市役所の方になるのですか。

(企画政策課副課長) はい。市役所にはハラスメントの相談員ということで、各部に3、4人ずつ相談員が配置されています。その方々の研修ということで昨年度実施されています。

(吉岡会長) 市職員さんということですね。

(企画政策課副課長) そうですね、はい。

(古賀委員) 市職員ばかりじゃなく、事業所も巻き込んだ研修会というのも市で実施したらいいのでは。

(企画政策課長) ちょっとすみません。職員研修の中で、昨今いろいろあっておりますので、管理職とか管理職に近い職員に対して、部下その他職員もいろいろおりますので、そういうハラスメントが起こらないようにということで、研修を昨年行ったという分になりますので、申し訳ございませんがその辺ご理解をよろしくお願いします。

(古賀委員) 新しく作っては。

(企画政策課副課長) 7ページのワーク・ライフ・バランスの推進ということでNo. 30をご覧ください。事業所への啓発ということで、女性の活躍の視点からワーク・ライフ・バランス等の研修を実施していきたいと考えていますが、ワーク・ライフ・バランスだけではなく、そういったハラスメント等の研修が必要ということであれば、織り交ぜながら実施していければと思います。

さきほどの防災会議の委員さんはどういった方がいらっしゃるのかですが、女性委員さんは、地域婦人会の代表、小城市消防団の女性部の代表の2名になります。他



の委員さんは、国土交通省や自衛隊、土木事務所、消防団、日本赤十字社、水道企業団等の各団体の代表の方となっております。

(圓城寺委員) ありがとうございます。

(吉岡会長) はい、わかりました。では、資料 3-2 ですけれども、全体的にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、資料 3-3、話題にも出ましたが、小城市の審議会等における女性登用率について何かご意見はございますでしょうか。既になさっているとは思いますが、委員改選の際に女性の方を登用していただくように声をかけていただくようお願いします。

(企画政策課副課長) そうですね。引き続き対応していきたいと思います。

(企画政策課長) この会議にかける前に、この議題を経営戦略会議（男女共同参画推進本部）にかけて審議をしたところですが、市長の方も会議に出席しておりまして、市長の方もできるだけ各部の方でも女性委員の登用率を上げるようにと、トップの言葉で重みもありますので、各部の部長もそのことは重々わかって進めていただけるものと考えております。

(吉岡会長) わかりました。では、最終年度は 35%ということで、我々も留意していきたいと思います。

では、この議題の全体はよろしいでしょうか？

よろしいですね。はい、では次に議題に進めていきたいと思います。

## (2) 男女共同参画及び女性の活躍推進に関する事業所アンケート調査結果について

「資料 4 男女共同参画及び女性の活躍推進に関する事業所アンケート 結果報告 (一部抜粋)」に基づき事務局より説明。

(吉岡会長) 今回の議題は、事業所を対象に行われたアンケートであります。これは、第 2 次計画で盛り込まれたものを新たに取り組んでいただいたものですね。その結果がまとまっているということになります。

資料 4 をご覧いただいて、ご意見やご感想をお願いします。

(古賀委員) 今回のアンケートは 230 事業所のうち 91 事業所しか回答がなかったということで、これ時期的に 2 月というのは、事業所は忙しい時期と思いますので、時期を変えたらいいのかなと思いました。

(吉岡会長) この辺はいかがですか。

(企画政策課副課長) そうですね。毎年度アンケートの実施は考えていないのですが、今回 2 月に実施しました。次回の実施は 3 次の計画を立てる前くらいになるのかなと思いますが、ご意見にありましたように時期等も考えながら実施をしていきたいと思いますが、考えていたよりも回収率が低かったのかと思いますが、市が実施している各種アンケートでも、40%前後の回収率なので、これくらいだったのかなと思います。

(吉岡会長) 事業所の立場からすると、どうでしょうかね。

(七島委員) 要は、回答する管理者の方たち、業種にもよりますが、もし回収率を上げたかったら、一言「アンケートいかがでしたか。」って、後のフォローがあると、忘れとったということで、出しやすいかなと思うので、もうちょっと上がったのかなと思いますね。

(古川委員) 私も会社勤めやっていたから、2 月は次年度の予算とか計画を組む時期で、事業所としては忙しい時期に入るんですね。それでそういうアンケート自体は、安易に答えてもダメかなと、担当者によって異なっていると思う。

(吉岡会長) 会社の中でどのような方が回答されるかわかりますか？

会社ごとに違いますよね。

(古川委員) 総務部長やその辺だと思います。

(企画政策課副課長) 宛名は代表者様ということで依頼をしていますが、回答されている方はこちらではわかりません。

(吉岡会長) 次回は、次の計画を立てられる前にまた実施していただく予定ですけど、時期なども答えてもらいやすい時期を選んでいただきたいと思います。

(藤井委員) ワーク・ライフ・バランスって個人毎には理解できても、企業自体の働き方を変えていかないと実現は難しいなと思いますけど、例えば、資料 4 (一部抜粋) の No. 4 の「女性の登用・活躍推進でどんな課題がある? (問 8)」の「特に課題は無い」と No. 6 の「育児や介護休業制度を活用する上での課題は? (問 14)」の「特に課題はない」というところが、進めようとして課題はないのか、理解がないうえで

の課題はないのかというところがすごく気になる点なのかなと思います。

(吉岡会長) 単に問題意識がないのか。

(藤井委員) そうですね。

(企画政策課長) 「特に課題はない」という、あえてそこに付けていらっしゃるので、私どもとしては前向きにできれば捉えて、後ろ向きの方は「無回答」となっているのかなと勝手な解釈もしたいなと思っているんですが、次回のアンケートの際には考慮したいと思います。

(藤井委員) だからこそ、なかなか女性が上へ進めないのか、女性が辞めなきゃいけないような原因になってないのかなと。

(半田委員) 思っていたよりね、すごく理解が、女性の登用を考えているとか、No. 3の「女性の活躍推進に向けての取り組みは？ (問6)」を見てみると、半数以上が50%以上のところが頑張っているなという感じがして。すごく興味深く思ったのは、No. 1の「主な業種区分は？ (問1)」で一番多いのは医療、福祉関係で、女性職員がすごく多いですね、看護師さんとか。この辺のところが反映して出てるのかなと思ったりしたんですけどね。でも、2番目が建設業で、建設業は男性職員が多いですよ。

(企画政策課長) きっと役員とかを女性がされているところは回答がしやすいから、回答を返されると、こういう率がよくなる可能性が高いのかなと。

(半田委員) 何も身になっていませんね。

(企画政策課長) はい、書きにくいからイコール出さないという、もしかしたらあるのかなと。

(吉岡会長) No. 2の「女性管理職 (係長相当職以上) は？ (問4)」で、女性管理職の係長相当職が63%あるということは、取り組んでいる企業が進んで回答をしているということはあるのかなと思います。

(半田委員) 3割から4割は取り組んでいるとみればよいわけですよ、全体の中で。

(吉岡会長) 回答されていない事業所が少し問題あるのかなと思います。回答した人が男性管理職である場合は、先ほど藤井さんがおっしゃったように問題を聞いていないのか、本当は問題を抱えている人がいるかもしれないけど、問題を察知してなくて課題がないという感じになっている可能性が私もあるかなとは思っています。

(半田委員) 難しいですね。

(吉岡会長) 難しいところですね。確かに、そういう方は最初から無回答にする可能性もあるので、両方が混在しているので、分けするのは難しいですね。いかがですか。

(藤井委員) 調査結果の中で、女性の非正規率が 70%と高いというのがあるので、どこまでの従業員に育児休業の待遇がなされているのかなど。

(吉岡会長) 女性の場合、非正規の従業員 70.4%とあって、待遇というか、その辺配慮なされているか。次のアンケートでは細かくはなりますが、聞いてもいいかなという感じはしますね。

百崎さん、何か全体を通してご意見ありませんか。

(百崎委員) アンケートはこれを出されたんですね。これを見て、ワーク・ライフ・バランスとはっていうデータもありますけど、これを付けてあるので、もしわからない方はですね、わかってらっしゃる方もいらっしゃるでしょうけれども、わからない方もいらっしゃると思うので、これは丁寧かなと思いました。また次回、このようなアンケートを行うようであれば、ここにアンケートの時期など載せられたらいいのかなと思います。

(古川委員) このアンケート調査については、各企業さんとかに送られる場合は、人事関係の担当者に送られた方がいいと思います。というのは、面接かれこれ、どのような形で雇用しますと、法で定めてあるようなことは箇条書きで言いますので、それに沿った形でお互いの雇用関係が締結されますので、やっぱり人事関係は総務部長がやっても社長の決裁が必要となっておりますので、人事関係の方に送られた方がいいと思います。

(吉岡会長) ちょっと、次回。

(企画政策課副課長) はい。次回、検討していきたいと思います。

(吉岡会長) ちょっと余談ですが、ワーク・ライフ・バランスに関して、ワーク・ライフ・バランスという言葉は知らなくてもいいと思うんですよ。家のこともしなくちゃいけない。でも、仕事も忙しい。そこをどう両立させるかというところについて、何か対策があればいいので、言葉自体別に知らなくてもいいと思うんですけど、聞き方としてはどうしてもこうなっちゃいますよね。

何かいかがですか。船津さん。

(船津委員) 子育て支援の仕事をしているので、若い子育て中のお母さんとお話をするので

すが、やはり、お父さんとの関係で、仕事を持っているお母さんと持っていないお母さんとの違いがあるんですが、働いてないということで、やっぱり、遠慮とか、子どもと遊んでいるというふうにまだまだ思われている家庭が、一部ではあります。遊んでいて何もしとらんと言われるとか、して当たり前という話を聞いたときに、子育ては対等に、お父さんとお母さんと家族みんなで協力するということを伝えると、そんなお父さんにあれしてこれしてとは、とても言えないと言われます。仕事が大変で休みの日はゆっくり休みたいという事情もあるとは思いますが、それが当たり前という、自分が我慢すれば家族が仲良くやっていけるというふうに思っているお母さんがいらっしゃるわけです。いや、そこはね、何でもこう我慢しなくて、してほしいことは言っていていいよと話をすると、そんなこと言えないとか。仲良くなって話していくと、性の強要とか、そういう夫婦生活のことなんかも、話をされる方がいると、やっぱり女性がまだまだ言えない立場の方がいて、DVにつながるようなケースもあると実感します。相談していいんだよと言っても、いや、そんな優しいときがいっぱいあるとか、怒ってもすぐごめんねと言って優しくしてくれるとか言って、自分が被害者という意識がない、そこをですね、自覚していただいて、我慢しなくていいんだよというところまで、話を持っていきたいが、もう自分はこれでいいと思っていらっしゃる方がいるんですね、中には。具体的に相談に来たというわけではなくて、話をしている中で感じる方がいらっしゃるので、アバンセさんへの紹介とかですね、そこまで、本人が自覚していないところで、でも、不満は持っているとか、他のお母さん方と話していると自分は違うかなと感じる方は気になりますね。

(吉岡会長) そうですね、なるほど。相談窓口があるからって、敷居が高くて、いきなりは行かないですし。まず、おかしいとは思っていらっしゃるけれども、だからって相談まではと思っていらっしゃる方は多いですよ。だから、船津さんぐらいの近さの方が聞くような機会があちこちにあつたらいいですけども。

(船津委員) チラシとか置いているけれども。本人はそんなふうには。

(半田委員) 自分は違うと、本人はそう思いたいんでしょうね、きっとね。

(船津委員) 暴力とか受けているわけではなく、言葉の暴力、そんなのして当たり前やろ、みたいなのはあっても。

(半田委員) それも DV ですもんね。お父さん、お母さんの思いやりがないと子どもへの影

響がすごくてピリピリする、神経をつかって気をつかっているところで話をすると。

お父さんとお母さんが対等で仲良く一緒に生きていかないと子どもが大変なのよ。自分たちだけの問題じゃなくて、子どもの問題になりますからね。

(古賀委員) その辺がなかなか難しい。できれば子どもが小さい間は、お母さんがしっかり家で育ててねと言っているけど、現状の中では、ほとんどの女性が働く時代になっている中で、子育てを家でしているという人たちへの、なんかもうちょっと知恵がないと、本当にそういうのは大いにあり得ることだと思う。

(半田委員) 一番子どもがかわいいのが3歳くらいまでですよ。そのときの子育てにお父さんが関わらなかつたらかわいそうと思いますね。かわいいときに、自分がどれだけ関われるか、そんないっぱい関わらなくても、一緒にお風呂に入るとか、オムツを替えるとか。ジョン・レノンなんか、そのために歌をやめて、子育てしたわけですよ。本当に子どもって3歳までが一番親孝行しているって。だから、そのときに関わらないお父さんは気の毒ねと思いますね。その辺がわかれば、ちょっと関わればすごく楽しいですもんね、子どもって。

(古賀委員) パパ・ママ教室が先ほど言われたけれども、これは健康増進課が産まれたばかりの赤ちゃんのパパ・ママを集めて、授乳の仕方とか抱っこの仕方とか、そういうのをやってらっしゃるけど、それとは別に、例えば企画政策課から企画してね、そういうお父さんと子どもとの集まりというのを、パパ・ママ教室とは別に、何かしたらどうかなど。そしたら、例えば、3歳になる子どもや5歳になる子どもがいるかもわからないけど、そういうお父さんと子どもが参加して一緒に話し合う。お父さん同士もいろんな話もそこでできるというような企画ができればいいなど。

(七島委員) それこそ、私、三日月ですけど、20歳の息子が小学校に入った当時、「おやじクラブ」というのがあったんですよ。今はどうなっているかわかりませんが、未だにパパ友と交流があって20人くらいだったんですけど、すごく良かったです。パパさんたちがボランティアで、やるぞと言って、サッカー教室や釣りをしたり餅つきをしたり。

(古賀委員) それ私もどこかで聞いたことあるけど、飲み会になってもするってね。お父さん同士が集まって、やっぱり、お父さんは仕事に行っているからあまり出会いがないからね。子どものこともよくわからない。だったら、そういう席で酒でも飲みながら

とか、いろんなことをしながら子どものことを聞いたり。

(七島委員) お母さんたちは割と横のつながりが少しありますけど、パパさんたちは割と無いんですよね。特に小学校って言ったら6年も幅があるので、結構先輩たちが多いんですよね。子どもが重なってたりとか、いろんな子どもがいるし、自分の子どもばかりじゃなく、他の子どもたちにもアドバイスができたりお手伝いができたりとか、昔は近所の人たち、おじいちゃん、おばあちゃんたちがやってくれていたようなことがもっとパパさんたちにも広がればいいなと言ってみなさんやっていたようで、まだそういうのが残っていれば、あちこちにあるにはあるようなんですけど、それが小学校の括りだったりとか市とか、そういうのがあればまたおもしろいんですよね。

(古賀委員) さっき古川さんがおっしゃったけど、最近は男性が弱くなってとか言われて、やっぱり男の人もそういったところで、会社でいろんなことがあって、心が病んでいる人というのがたくさんいるんじゃないのかなと思うんですよね。

(古川委員) かえてってそういう人が多いんじゃないですかね。

(古賀委員) だから、そういう人たちもちょっと少し横のつながりを持って、楽しみを持つようなことがあればいいなと思います。

(吉岡会長) パパ・ママ教室について言うと、子どもとの関係もそうですけど、ママとパパの関係ですよ。それもまたこう組み込めればいいかもしれないですけど、何でもかんでも組み込めればいいというものではないんですが。

(古川委員) 昭和の時代の話をするれば、昔だったら各地区で祭ごとが多くあっていたわけですね。それで、隣の地区で祭をやるときには、俺たちも行って遊ぼうとか。そういう子どもの交流、また大人の交流が頻繁にあっていたわけですね。それが祭ごとがすっかり無くなってしまってますね、今は。そういうところから過疎化になったり人との触れ合いが少なくなって行って、もう言われたように会社では上司からガンと言われて、家に帰れば妻からあれしろこれしろと言われて。立場が行くところがないわけですよ、親父としては。しかし、威厳を持たなきゃならない。今度は子どもにあたる。子どもは何でこんなこと言われなきゃならないのと思うかもわからんけど、ニコニコして寄ってくる。そういうところはやっぱり汲んでやって、お互いに夫婦、今日は会社で何かあつとるなと汲み取るような形になれば上手くいくとは思いますが。

(吉岡会長) 相談までは至らないですけども、何かちょっとおかしいなと。それこそ横と

のつながりで感じて、でも自分が我慢すればと思っちゃっているような、こそっと我慢しちゃっているのかなという感じもあるんで、そこをですね。

(古賀委員) さっきの船津さんの話ではないではないですけども、その辺をもうちょっと私たち地域で見守っていかなければいけないのかなとつくづく思いました。なんか怖いような気がします。

(船津委員) 経済的にも働いているお母さんとか、職場復帰できる育休中のお母さんとかはまた違うんですが、専業主婦というか、次に仕事のあてもなく、特別、資格が自分にはないとか、そういう人たちとかが、自分自身母親になって充分自信を持っていいと思うんですけども、自分に自信がないお母さんっていらっしゃる。また、お父さんもそうなんですけれども。だから、不満はあっても自分で生きていく力とかを充分あるとは思っただけけれども、自分の中にそこがないというか、生活していかれんもんとか。やっぱり仕事を見つけていくという、それだけのエネルギーがまだ無くて、現状維持の中で、でも何か悶々としている。でも、話してちょっと聞いてもらっただけで、その一瞬はすっきりしましたとか言われるけど、でもまた帰れば同じっていう感じの繰り返しという方が。

(七島委員) 育児サポーターの方々は増えていますか。

(船津委員) 現状維持ですね。

(七島委員) 近所の方たちも年配で 60 代くらいの奥さんたちで、サポーターしたいねって子どもかわいいねって、自分たちも子育てサークルとかに行っていたときに、子どもと一緒に横で遊べるけれども、自分がその相談する人生の先輩としてくださったアドバイスがすごく助かったんですね。私は同居してて子育て初めてだし、すごくおじいちゃん、おばあちゃんに助けてもらってよかったんだけど。それでもやっぱり他人だから折り合いが悪かったりすると、ストレスが溜まったりするときに子どもを見てもらいながら自分も助けてもらったという、それがあってですね。だから、サポーターの人たちがもっと増えると、結局子どもをみてもらえるし、ちょっと心の拠り所ではないけれども、精神的にも、例えば、専業主婦のお母さんでもサポーターに預けられるような、例えば、それこそ資格を取りに行きたいとか、ちょっとやっぱり子どもと、特に同居していないお母さんは、24 時間、たぶん子どもさんと一緒と思うんですよ。1ヶ月に1回だけ、ちょっと自分の時間、半日だけでも1人で買い物したりとか、そ



ういう自分の時間がほしいとか、そういうところをサポートしてくださるところがね、あるといいのかなと私はちょっと思います。

(半田委員) 心配だなと思っている方には、見守りをお願いします。

(船津委員) 保健師さんと連携を取ったりしています。

(古賀委員) 外からのサポートはできるけれども、家庭の中とかでも言葉の受け方とかがそれぞれ違ってくると思うんですね。夫婦働いている家庭と家で子育てして自分は家庭にいて、遊んで子育てしているみたいだなんて言われるけれども、その辺がまだまだ男女共同参画とは言うけれども、まだそれがしっかり進んでいないという、その辺のことを今後はやっぱり進めていかなければならないかなと思いますね。

(吉岡会長) そうだと思いますね。

(古賀委員) 職場とかでもだいぶ男女共同参画が進んできたけれども、まだまだやっぱりその見えないところでのそういう隅っこに問題があるということ。

(吉岡会長) ご指摘のとおりだと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

資料4に関してその他何かございませんか。よろしいでしょうか。

では、ありがとうございました。

### (3) 平成30年度男女共同参画関連事業計画について

「資料5 平成30年度 男女共同参画関連事業計画」に基づき事務局より説明。

(吉岡会長) 昨年の事業をほぼ踏襲ということですがけれども、何かご意見ありませんか。

(古賀委員) 今年度の事業ですがけれども、半田さんや吉岡会長はご存知かと思えますけど、横浜の橋本明子さんという方をご存知ですか。半田さん、知ってないかな。

(半田委員) いえ、知らないです。

(古賀委員) この方は横浜の方で、護身(心)術「WEN-DO (ウェンドー)」とか言うらしいんですけど、護身術を指導されたり。この方自身がすごくDVを受けられて、そういった話をされているみたいです。それで、久留米市の方で、毎年、男女共同参画週間のときに、この方を呼んでされていて、それを知ってもう10年くらいは続けているということで、呼子の谷口さん。ご存知でしょ、半田さん。

(半田委員) はい。

(古賀委員) あの方が男女共同参画の会長をされていますけど、この方も毎年この方、橋本さん呼んで、護身術とDVの話、それと子どもの性教育に対する話とか、いろんなことをされているみたいです。その護身術というのは、どういうところから出てきたのかということなんですけど、DVを受けるときに受けっぱなしじゃいかん、やはり自分を守らなきゃいかん、というようなことから護身術を始められたみたいです。それと、例えば、いろいろ言われたときにそれを受け止める力。そういうのも話していただけるということで、すごくいい先生だから婦人会でどうだろうという話があったんですね。男女共同参画ネットワークに相談しようと思いましたが、今日、男女共同参画審議会があったので、事業として、市として、こういう方を呼んでされたらどうかなど。講師料も聞きましたら1時間9千円だそうです。それで、例えば、交通費などは、久留米市に来られるときに合わせて呼子でも開催されているし、そしたら交通費が少なくなる。だから、古賀さんのところも久留米・呼子にあわせてどこかで開催したらと教えていただきました。提案ですけど、もしよかったらインターネットで「橋本明子さん」でサーチしてみてください。

(半田委員) 私の方では、たくさん人に来てもらえる、若いお父さんお母さん呼ぶには、講師はどうしようなんて話をしていたところなんです。今度、県、アバンセの男女共同参画講演会の講師が東大のすごくおもしろい先生で、すごくおもしろいみたいです。

(古賀委員) この方も昔、アバンセに来られたみたいです。私も覚えてなくて。

(半田委員) 私も聞いたことない。

(古賀委員) 聞いたことなかったからね、それもいいねって思って。今結構、護身術って流行っていますよね。例えば痴漢対策とか。そういうところも含めて若い人には、ちょっと興味があるのかなと思って提案させていただきました。

(吉岡会長) では、今年度の事業に関して、その他何かご提案を含めてご質問はございませんか。市の方では何か力を入れたいことはありますか。

(企画政策副課長) 2次プランでは、プランの一部を女性の活躍推進計画と位置付けていることもありますが、今年度も昨年度に引き続き事業所に向けた啓発ということで、啓発チラシの作成・配布や、アンケートの分析結果等の公表を行っていきたいと思って

います。

(吉岡会長) ぜひせっかくアンケートの結果をまとめてもらっているのに、フィードバック作業をお願いしたいと思います。

それではよろしいでしょうか。

議事は以上でございますけども、何かご意見はございませんか。

では、議事は無事終わりましたので、事務局にお返ししたいと思います。

#### 4. 閉 会

(企画政策課長) スムーズな議事進行ありがとうございました。その他のことまで会長の方ですませていただきましたので、これで終わりたいと思います。

皆様からいただきましたご意見につきましては、録音させていただいておりますので、きちんと議事録を作成し、今後の事業の参考にさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

午後 3 時 3 8 分 閉会